事業所名: チャレンジキッズ雪谷大塚園

令和3年度
東京都福祉サービス第三者評価

評価結果報告書

評価機関(機構07-172)
合同会社　福祉経営情報サービス

別添資料1

福祉サービス第三者評価結果報告書（令和3年度）

2022 年　3 月　10 日

チャレンジキッズ雪谷大塚園
園長　片山悦子殿

郵便番号 104-0061
所在地 東京都中央区銀座6-6-1　銀座風月堂ビル5F

評価機関名 合同会社　福祉経営情報サービス

認証評価機関番号 機構 07 ― 172
電話番号 03-5537-7750
代表者氏名 渡邊廣貴　印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		経営	H0403033
	②		福祉	H2001044
	③		経営	H1201010
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	地域型保育事業　小規模保育所			
調査対象事業所名称	チャレンジキッズ雪谷大塚園			
事業所連絡先	郵便番号	145-0067		
	所在地	東京都大田区雪谷大塚町13-19パークサイドスペック田園調布1階		
	電話番号	03-3727-6422		
事業所代表者氏名	片山悦子			
契約日	2021 年　11 月　22 日			
利用者調査票配布日（実施日）	2021 年　12 月　6 日			
利用者調査結果報告日	2022 年　1 月　17 日			
自己評価の調査票配付日	2021 年　12 月　6 日			
自己評価結果報告日	2022 年　1 月　17 日			
訪問調査日	2022 年　1 月　19 日			
評価合議日	2022 年　2 月　18 日			
コメント（利用者調査の工夫点、補助者・専門家等の活用などを記入）	利用者調査(アンケート): ・配布は事業所に協力をして頂いた。 事業評価: ・経営層自己評価の中で課題として認識している項目については、その課題に対する対応状況等を聞き取り現状の把握に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の調査結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

2022年　3 月　15 日

事業者代表者氏名 チャレンジキッズ雪谷大塚園 園長 片山悦子 印

〔事業者の理念・方針、期待する職員像：認可保育所〕　　令和3年度

《事業所名：チャレンジキッズ長原園》

1	**理念・方針 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）**
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、 特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）
	1）子どもも保護者もそこで働くスタッフも幸せで夢のような空間を創る 2）常に新しい挑戦を続ける（Challenge） 3）常識の壁を突き破る（Breakthrough） 4）最上のおもてなしを追求する（Hospitality） 5）地域密着運営
2	**期待する職員像 （関連　カテゴリー5　職員と組織の能力向上）**
	（1）職員に求めている人材像や役割
	・努力を惜しまない積極性とホスピタリティを持ち、仕事を通じて自分自身の成長やスキルアップを目指す人 ・現状維持ではなく、常に向上心を持って進化を求める人
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	・仕事を心から楽しみ、誇りを持つこと ・保護者やお子様と感動を共有し、笑顔で幸せな空間を創ること ・常に前進する気持ちを持ち、保育の質の向上に努めること

《事業所名: チャレンジキッズ長原園》

調査対象	保育園を現在利用している全世帯の保護者を対象に調査を行った。 1世帯で複数名の子どもが通園している場合は1回答とした。 子供総数:12　世帯数:12
調査方法	・調査項目:東京都福祉サービス第三者評価の標準様式に準拠。 ・事業所への報告:自由回答については匿名性への配慮を行った上で事業所に報告した。

利用者総数	12
利用者家族総数(世帯)	12
共通評価項目による調査対象者数	12
共通評価項目による調査の有効回答者数	10
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	83.3

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度の選択では「大変満足」が回答の40%、「満足」が50%、「どちらともいえない」が10%であり、回答者の90%が「大変満足」「満足」のいずれかを選択している。

総合感想の自由記述では、「子供ひとりひとりを丁寧に見ていただいていると思います。」「先生方が皆さん接しやすく、小さいことでも聞いてくださるのでとてもありがたいです。」「とても良く対応して頂いています。」などの回答があった。また、「基本的に満足していますが、たまに事務連絡が直前になってしまっていて焦ることがあります。」等、園からの連絡に関する意見があり、そのほか、新型コロナ感染症対策の一環で実施している送迎時に玄関で1名ずつの対応になることについての意見なども見られている。

個別設問の選択肢では自由意見欄へのコメント数は多くはなかった。また、「いいえ」の選択は僅かであった。
なお、選択肢の回答率については「無回答・非該当」を除いた数値を参照して記載している。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	10	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。自由意見欄には「とても感謝しています」という回答があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	10	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。自由意見欄に意見はなかった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	8	2	0	0
回答者の80%が「はい」を選択している。「素晴らしいです。」という回答のほか、使用する食材やお子さんの嗜好に合う・合わないといった回答があった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	9	1	0	0
回答者の90%が「はい」を選択している。「いろんな公園へ行ったり、お散歩大好きになりました。」「気候に問題なければ毎日お散歩に行ってくれるので有難いです。」という回答などがあった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	9	1	0	0
回答者の90%が「はい」を選択している。自由意見欄には保育時間の変更が職員の負担になるため気にしてしまう旨の回答があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	10	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。自由意見欄に意見はなかった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	0	1	0	9
「無回答・非該当」が大部分であり、そのほかは「どちらともいえない」の選択が1件のみあった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	9	1	0	0
回答者の90%が「はい」を選択している。この設問では「いつも相談に乗ってくださいます。」という回答があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	10	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由意見はなかった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	8	2	0	0
回答者の80%が「はい」を選択している。この設問の自由意見はなかった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	9	1	0	0
回答者の90%が「はい」を選択している。この設問の自由意見はなかった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	8	0	0	2
「無回答・非該当」を除く回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由意見はなかった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	10	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由意見はなかった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	8	0	0	2
「無回答・非該当」を除く回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由意見はなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	9	1	0	0
回答者の90%が「はい」を選択している。この設問では「先生によっては連絡帳の記載内容が少ない時もあるなと思います。」という回答があった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	7	2	0	1
「無回答・非該当」を除く回答者の78%が「はい」を選択している。この設問の自由意見はなかった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	3	2	1	4
「無回答・非該当」を除く回答者の50%が「はい」を選択している。この設問の自由意見はなかった。				

Ⅰ 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）

No.	共通評価項目
1	カテゴリー1 リーダーシップと意思決定

サブカテゴリー1（1-1）

事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　7／7

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している　評点（○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当

評価項目2
経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている　評点（○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○ 非該当

評価項目3
重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している　評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当

カテゴリー1の講評

掲示やミーティングにおける周知により、理念や目標の浸透が図られている

チャレンジキッズ雪谷大塚園は「やってみようの心を育む」を保育理念として、子どもの好奇心や素直な気持ち、思いやりの心などを大切にして運営をしている保育園である。理念やスローガン、年度の目標と四半期目標は職員の目に留まるよう事務所内に掲示されている。また、園内ミーティングの議事録に理念を印字し、目標の周知の際には理念とスローガンを伝えて職員間で意識し、共有することで理念の浸透を図っている。保護者にはパンフレットに理念などをわかりやすく記載し、見学時や入園時に説明することで周知がされている。

「子どもファースト」を掲げ、職員が自立的に課題に取り組める職員集団を目指している

園長は着任後、職員と顔を合わせたときに会話をする等、職員とのコミュニケーションや職員間での話し合いを大切にして園長業務を遂行している。また、経営層からの一方的な決定事項を実行するのではなく、職員が自ら課題に取り組み、改善や解決策を提案できる現場主体の職場環境を目指している。保育に関しては「子どもファースト」で、子どもが落ち着いて過ごせる環境とするために何を行なわなければいけないかを職員に伝えている。保育の現場は主任が統括し、毎朝の打ち合わせなどで情報共有を図り協力して園運営をしている。

情報共有をしたうえで職員間で話し合い、園内の意思決定がなされている

記録に残すべき情報などは社員が個別に持つメールアドレスに送信して職員と本部との間で情報を共有している。園内の案件については、すべての議案を事前にミーティング前にまとめてもらい、週1回開催するミーティングで決定し議事録に記載して共有している。園のことは職員皆で考えることにしており、例えば、戸外遊びの場所保育環境、個々の援助などについて意見を出し合い、話し合って決定している。

カテゴリー2

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー1(2-1)

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6／6

評価項目1
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評点(○○○○○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○ 非該当

サブカテゴリー2(2-2)

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点(○○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○ 非該当

評価項目2
着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー2の講評

保護者、職員からの意見を得て園運営に活かしている

運営委員会は令和元年度までは対面で開催していたが、コロナ禍にあり、調査時点では書面による開催となっており、園の状況などを伝えて委員である民生委員と保護者から意見を得ている。そのほか、保護者からの意見は、保護者個々との連絡で利用している保育アプリにより個別に把握がされている。職員からの意見や要望があれば毎週のミーティングで取り上げ話し合っており、相談したい事項があれば随時の話し合いや個別対応などがされている。

地域の動向やニーズを踏まえて園の課題が抽出されている

地域の動向などは区の保育サービス課との連絡で情報を得ている。また、区の施設長会はコロナ禍により開催されていないが、調布地区の民間園などが参加する保育施設の施設長会に参加することにより情報が得られている。そのほか、連携園からも情報が得られている。園内では外部環境を把握のうえ、年度の目標を年度末に振り返り、次年度に向けた課題を抽出している。園運営については本部から情報を得ており、予算については園内で経費を管理し経理からの収支報告を毎月チェックして把握している。

中長期経営計画が策定され、園内では目標を設定し四半期事に進捗を確認している

中長期の経営計画は法人で策定している。2021年度の経営計画書では保育事業室版が策定されており、事業部門としての中長期的な展望が具体的になっている。また、中期課題から年度計画を策定し、年度の収支計画まで策定しており、今後は全体的な年度の実行計画から園の年度事業計画へ展開をしていく予定である。園の年度事業計画では現状を踏まえた年度目標、四半期目標が設定されており、期毎の実績確認に加え実施状況を四半期ごとに振り返り、次期の目標をミーティングで話し合って決定している。

3	カテゴリー3
	経営における社会的責任

サブカテゴリー1(3-1)

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2／2

評価項目1
社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○ 非該当

サブカテゴリー2(3-2)

利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4／4

評価項目1
利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○ 非該当

評価項目2
虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○ 非該当

サブカテゴリー3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3／3

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(○)・非該当1

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○ 非該当
○ あり ○ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	◉ 非該当

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点（〇〇）・非該当1

評価	標準項目	
○ あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	◉ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー3の講評

ルールブックや社内研修、園内での周知などで遵守事項が丁寧に周知されている

入社前に配布されるチャレンジキッズのルールブックには、身だしなみのほか、仕事の心構えや取り組み姿勢、勤務、休暇、個人情報やプライバシー保護などについて掲載し、遵守事項をわかりやすく職員に伝えている。そのほか、社内では異動者向けの研修もあり、1か月の期間を設定し、チームワークや仕事の流れなどを指導する機会がある。また、次年度に向けた3月のキックオフ会でも遵守事項について伝えられている。園内では例えばプライバシー保護の一環であるSNSの投稿などについてはDVDの視聴を促し、また、日常的に職員に周知をしている。

保護者からの意見を聞き取り、対応がされている

苦情解決制度については外部委員の連絡先や、区内において利用者が直接利用できるオンブズマン制度について園内の掲示等で利用者に周知している。また、園内に「目安箱」を設置し、保護者から意見を伝えられるようにしているが、保護者の意見や要望は送迎時の会話と連絡とアプリから主に把握している。回答は直接口頭で担任や園長から伝えている。子どもの成長に応じた相談は日常的にあり、例えば食事の献立についての相談であればレシピの紹介などもしている等、丁寧な対応がされている。

虐待を早期に発見して関係機関と連携する体制がある

虐待対応については虐待発見時の通告（連絡）先をフローチャートにして掲示しており、園内で必要な行動をとり児童相談所など関係機関と連携をする体制がある。情報公開についてはワムネットや大田区のWEBサイト、法人のWEBページで第三者評価結果の公表等がされている。
※カテゴリー3-3-1-2, 3-3-2-1については、東京都福祉サービス第三者評価の共通評価項目に関する通知で認証B型、認可外は任意項目とされている事から、定員、対象年齢が類似している当保育所の評価においても同ガイドラインに準拠し「非該当」としている。

カテゴリー4

4 リスクマネジメント

サブカテゴリー1（4-1）

リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4／5

評価項目1
事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

評点（〇〇〇〇●）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当
○ あり ◉ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当

サブカテゴリー2(4-2)

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4／4

評価項目1
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

評点(○○○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○ 非該当

カテゴリー4の講評

安全性の確保策はマニュアルや掲示で周知され、訓練などで対応力が高められている

地震や熱性痙攣、アレルギー、虐待、怪我発生時などの対応と行動についてはフローチャートを掲示しており、そのほか、虐待チェックシートや苦情、SIDS、プール事故発生時、感染症発生時の対応等が掲示されている。掲示物は非常にわかりやすい内容であり、防災面はチャートに沿って職員が即時の行動ができるようにしている。また、毎月の避難訓練は地震、火災のさまざまな想定をして実施されている。そのほか、テロ発生時や台風の時の対応などについても職員への周知がされている。

新型コロナ感染症対策など、園における各種リスクの低減に努めている

園における安全性の確保については法人各園の園長ミーティングでも話し合い、検討して法人全体で共有し、対策をしている。新型コロナ感染症対策では感染症ガイドラインに準拠して衛生面の対策をしている。今年度からCO2モニターを導入し、時間帯により窓を全開にして換気する、食事時は一列で会話はなるべく少なくする、手洗いの励行等、予防と蔓延防止策を徹底している。事故防止について、園内では怪我報告書を参考にして再発防止に努めている。BCPについては災害時に園として的確な行動ができる内容で今後整備してゆく意向がある。

情報の保護と共有に配慮し、個人情報についてはアクセスを限定して保護している

書類は整理され情報を閲覧しやすいよう管理されている。グループ園等との情報共有についてはグループウェアを活用している。社内データを保管する共有フォルダは基本的に職員が閲覧可能であるが、権限により一部ファイルは閲覧の制限をしており、個人情報の保護については運営法人で策定している規程に則り閲覧できる階層を限定して保護に努めている。また、職員向けにガイドラインが作成されており、入社時には秘密保持等、情報漏えいに関する誓約書を得て、間違いのない運用を期している。

カテゴリー5

5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1(5-1)

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12／12

評価項目1
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○ 非該当

評価項目2
事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○ 非該当

評価項目3
事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○ 非該当

評価項目4
職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金、昇進・昇格等）・称賛などを連動させている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2（5-2）

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3／3

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー5の講評

職員一人ひとりの課題を具体的に把握して人材の育成に取り組んでいる

保育事業部門に特化した7等級の役職等級制度を今年度作成し、キャリアパスを運用している。人事制度は作成されたキャリアパスに沿って運用されており、行動指針を明記し、マネジメントと一般用の評価シートを作成して面談のうえ評価が決定されている。人事制度についてはハンドブックを作成して職員に周知されている。また、職員個々は「C・B・Hシート」を用いて定期的に目標設定と仕事の振り返りをしている。C・B・Hシートと年2回の定期面談により、具体的に職員個々の課題を把握して改善と育成に活用している。

外部研修やOJTなどで職員個々のスキルアップを支援している

外部研修は内容を吟味して参加させており、オンラインで実施される研修などに職員が参加している。受講後は必ずレポートを作成し、グループウェア上やミーティングで共有している。社内研修として以前実施されていた海外（ハンガリー）研修はコロナ禍で休止となっているが、収束した時には再開する予定としている。園内では主任によるOJTが実施されている。中途入社の職員は当初1か月間チャレンジプログラムのマニュアルを読み込み、実際の保育とすり合わせを毎週行なっている。また、他の職員も同マニュアルと保育のすり合わせを実施している。

チャレンジを奨励し、福利厚生面の充実化等で働きやすい職場づくりを推進している

社内で保育士資格を所持していない人で意欲がある人には保育士資格取得にチャレンジもしてもらっている。試験料を1回補助するほか合格時には一時金を支給し資格取得を支援しており、実際に保育士資格の合格者も輩出している。
努力義務であるストレスチェックは法人として全職員に実施しており、産業医の面談なども可能である。
園内では毎週行われるミーティングにて課題の解決や目標達成に向けた検討などを行なっている。また、ボトムアップ型の意思決定を重んじ、ミーティングで職員同士が話し合って合意形成をしている。

	カテゴリー7
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1（7-1）
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

前年度はチャレンジキッズ雪谷大塚園の目標を3項目掲げ、そのひとつとして「保育の質の向上」を掲げ、ながら保育をしない環境を整える、成長・発達に合わせた言葉がけと援助等、四半期毎に目標を設定して年間を通して取り組んだ。結果を振り返り、今年度は継続的かかつ発展的な目標として「子どもが安心して楽しく過ごせる保育」を園の目標として掲げて取り組んでいる。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

園の目標を明確に表記して事務所に掲げ、四半期目標を立てて各目標を期ごとに振り返り、実施事項の修正を行ない目標達成に向けて取り組んでいる。達成状況を振り返り、検証の結果を次年度の目標に反映させている。

評価項目2
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

前年度のチャレンジキッズ雪谷大塚園の目標のひとつとして「整理整頓・備品管理」を掲げ、保育室内の整理整頓と衛生管理の徹底、子ども個々の遊びが保証される保育環境の設定などを四半期目標として設定し、年間を通して取り組んた。前年度の目標を振り返り、また、今年度は職員の入れ替えもあり人的環境も変わったことから、重要事項として職員の動きや保護者との連携、職員同士の連携に焦点を当て今年度の目標を新たに設定した。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

園の目標を明確に表記して事務所に掲げ、各目標を四半期ごとに振り返り、四半期目標を立てて実施事項の修正を行い目標達成に向けて取り組んでいる。今年度の目標については前年度の目標を振り返り、内部の環境を踏まえて年度の重点実施事項を抽出し設定されている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目
	サブカテゴリー1
1	サービス情報の提供　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　4／4

評価項目1
利用希望者等に対してサービスの情報を提供している
評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当

サブカテゴリー1の講評

園のウェブページやSNSサイトを活用し、園概要や保育の様子を広く発信している

園のウェブページやSNSサイトを活用して園の情報を発信しており、ウェブサイト内で頻繁に更新されているブログでは園で実施している行事や食育、地域との交流、日々の保育園生活の中での戸外遊びや食事など、子どもの様子を伝えている。SNSサイトでは給食の写真などをアップして紹介している。
入園説明会で使用するチャレンジキッズのしおりや雪谷園のしおりには「開業ストーリー」や理念、子どもたちや保護者へのメッセージが記載され、チャレンジキッズの想いが伝わる内容となっている。

園のしおりやチラシなどを近隣地域にも配布し、積極的な情報提供がされている

園の空き情報等を区に提供しており、空き情報は区の保育関連ページから確認ができる。インターネットのほか、「第二の実家」というコンセプトやチャレンジキッズプログラム、安心安全な給食、保育室の環境等、園の特徴が記載された園のしおりや入園案内などが作成されており、入園希望者等に配布されている。また、園で人気のおやつレシピを掲載したチラシを玄関に設置し自由に持ち帰れるようにしているほか、近隣にポスティングする等で地域に向けた積極的な情報提供がされている。

入園希望者向けの案内は詳細に作成されており、丁寧な見学対応がされている

入園希望者からこれまでに問い合わせが多かった質問をまとめてQ＆Aを作成し、ウェブページや説明会資料に掲載している。園見学は入園申し込み前の10月頃に希望が多く、年間30組程の見学がある。日程は希望者と園の都合に合わせ柔軟に決め、なるべく早めに見学ができるよう調整することにしている。見学の対応は園長が行い、1組ずつ対応している。案内時は詳細な案内が記載された園のしおりに沿って保育環境のほか、ハンガリー式の流れる保育のことなど、園として大切にしていることについて説明して保護者からの質問に答えている。

	サブカテゴリー2	
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6／6

評価項目1
サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○ 非該当

評価項目2
サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2の講評

入園前面談で重用事項を丁寧に説明し得られた情報は内部で共有して保育を開始している

入園決定後は入園時の必要書類を保護者に送付し、入園前に個人面談を実施している。個人面談では重要事項や利用契約の内容の説明を十分に行い同意書により同意を得ており、心配事や不安な点等に回答して入園時の不安解消に努めている。保護者から提出された書類は個人別のファイルに綴じ、事務所に保管している。登園が開始される前には保護者に提出してもらった家庭状況調査書などを参考にして子ども個々の状況や環境を把握し、食事、睡眠、排泄、発達、遊び等については面談で詳しく聞き取った情報も職員間で共有して保育をスタートさせている。

保護者個々の不安を解消し、子どもが安心して園生活を始められるよう配慮している

入園後は慣らし保育を実施している。慣らし保育の期間は可能であればゆったりとって、その中で保護者の不安を解決できるよう面談時に伝えて開始している。慣らし保育は基本的には20日程度の日程で組むことが多いが、保護者の就業状況に応じ期間を短縮するなど柔軟に対応している。また、例えば、月齢が低い子どもの保護者が抱く心配や不安などについてであれば、状況を会話や連絡帳で伝えたり、写真で伝えるなどの工夫をして不安解消に努めるなど、子どもの様子を見て個々に対応をしている。

連絡ツールを継続利用してもらっており、卒園児家庭とのつながりを維持している

園の隣は公園になっており、隣の公園で遊ぶ卒園児も多い。そのため卒園児から話しかけられたりすることもあるなど、卒園児や卒園児家庭とは地域の中での自然なつながりもある。
子どもの在園時に園との連絡に利用していた連絡アプリを卒園後も継続して利用できるようにしており、保護者が卒園後も園との連絡を取れるよう配慮している。また、卒園後も何かあれば気軽に来園するよう伝えており、実際に来園する家庭もある。

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12／12

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	○ 非該当

評価項目3
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点（○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点（○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○ 非該当

サブカテゴリー3の講評

日頃から職員間で話し合いを持ち、その内容を各計画に反映している

入園前の子どもの心身の状況や生活状況は健康管理表や児童票、発達過程の記録等に記録し把握される。保育の全体的な計画に沿って年間指導計画、月間指導計画（月案）が立てられており、個別指導計画は在園児が1，2歳児なので全員分作成されている。入園当初の個別月案は入園時に確認した子どもの姿や面談で把握した保護者の要望・ニーズを反映して作成されている。毎月子ども個別に振り返り翌月の計画が立てられており、日頃から保育者間で子どもについての話し合いが行われているため話し合った内容が計画に反映されている。

年間の見通しを立て、日々の保育では柔軟性を持った計画を作成することを心がけている

月案はクラス内で計画の評価、反省が実施されており、園長が確認している。子どもたちの状況と発達、子どもの姿を踏まえその内容に基づき翌月の計画が作成されている。月案には保護者支援についても記載しており、必要に応じて、個別の連絡アプリや日常の会話から得られた保護者からの要望や相談などを踏まえた保護者支援が計画されている。また、年間の保育計画から日々の保育までが連動して展開され、週案などは現状を踏まえ柔軟性を持った計画を作成することを職員にも伝えている。

必要な情報をまとめ、共有しやすいようにファイリングなどの配慮がされている

子ども個々の記録は一冊のファイルにまとめられ、発達状況や個別の月案、健康記録、家庭の状況等、その子どもの保育に必要な情報を確認することができる。また、職員間で共有すべき情報は出勤時に全て確認できるよう一か所にまとめて置き、情報共有がしやすいよう工夫がされている。
登降園時に保護者から聞き取った子どもの情報や家庭の状況などは送迎者記録の備考欄に記入し、職員間で共有して保護者への伝え漏れがないようにしている。引継ぎは送迎者記録の確認と連絡ノート、口頭により実施、また、ミーティング時にも共有されている。

	サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○ 非該当

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当

サブカテゴリー5の講評

園内での生活や写真の扱い等、プライバシー保護を徹底している

プライバシー保護については利用契約書に明記し、入園時に口頭と書面で説明して同意署名を得ている。また、インターネットで写真販売を行うにあたり掲載の同意確認を保護者から得ているほか、購入した写真の取り扱いに関する誓約を保護者から得る等でプライバシー保護に留意している。
多くの窓から自然光がたくさん差し込む保育室は、窓ガラスの中央を目隠しにしてプライバシーが確保されている。また、おむつ交換時は場所を考慮して扉を閉める、衣服の着脱も場所を設定して行なう等、日常の保育の中での子どものプライバシー保護に配慮している。

日々の保育では子どもの気持ちに寄り添い、一対一の関わりを大切にしている

子ども一人ひとりの発達なども異なるため、一人ひとりの思いを尊重することを小規模園の特徴としても大切にしている。今回の視察では、例えば、食事前の片づけの時に片付けをしたくない子どもがいれば、無理に行動させるのではなく先に他児に声を掛けたり、食事の時も保育者が一人ひとりの様子を見ながら、落ち着いた雰囲気の中で声掛けや食事の介助を行なっており、子どもの気持ちに寄り添い、思いを受け止め、一対一の関わりを大切にしている様子であった。

掲示やマニュアルにより虐待防止および対応の認識を高めている

虐待防止については対応マニュアルを整備し、虐待発見時の行動の流れをフローチャートにして園内に掲示して、職員間で認識を共有している。また、気になることがある時には職員全員で共有し、全員で見ていくことに取り決めている。虐待防止や育児困難家庭への支援にについては研修に参加したり、勉強会を実施することで全職員のスキルアップを図っていくことも検討している。

	サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当

評価項目2
サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点（○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○ 非該当

サブカテゴリー6の講評

各種マニュアル類は、保育・業務のガイドラインとしてわかりやすく作成されている

保育・保健・防災・事故・不審者対応・危機管理・散歩・個人情報・虐待・苦情などについての対応マニュアルと、「ハンガリー保育」を手本にした子どもへの関わり方の手引き等が用意されている。マニュアルはフロアと事務所に置き、対応に迷ったときに見ることができるようにしている。また、新しく入職した職員には読み合わせを行い内容の確認をしている。チャレンジキッズプログラムのマニュアルは姉妹園の園長たちで作成したものであり、同じエリアの姉妹園3園の間ではマニュアルの記載事項が各園でしっかり行われているか相互に確認をしている。

行動の手順をわかりやすく示す実践的なフローチャートを作成して活用している

マニュアルの見直しは必要に応じて随時行われており、不足している点や変更が必要なこと等について各園からの意見を法人保育事業室が聞き取り見直している。例えば嘔吐処理などは一つの対応ではなくケースに合わせて対応ができるようにしていく等、現状や必要性に応じてマニュアルを見直していくことにしている。変更があった点は出勤時やミーティング時に確認して園内での情報共有をしている。
マニュアルのほか、行動の手順をわかりやすく示す各種フローチャートが園内に掲示されており、必要時に迅速かつ適切な行動がとれるよう配慮されている。

Ⅲ サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

	サブカテゴリー4		
	サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	34／34

1 評価項目1
子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている

評点（○○○○○）・非該当1

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○ 非該当
○ あり ○ なし	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	◉ 非該当

評価項目1の講評

「『やってみよう』の心をはぐくむ」理念のもと、一人ひとりに寄り添う対応をしている

子どもが自ら「やってみよう」と思う気持ちが持てるよう意識して支援をしている。子どもの思いの理由などを受け止め、1人ずつ、個々の思いに寄り添うよう心がけ、言葉に表せない思いを保育が受け止め代弁したりすることを大切にしている。また、同じ保育者が日々継続的に見るとともにクラスを超えて他の保育者も子どもを把握し、かかわり方を相談して保育している。玩具は使いたい子どもに行き渡るよう数を揃えるなど環境面にも配慮しており、子どもが手を伸ばしてやりたい遊びができ、子ども自身が遊びを広げられる環境づくりを心がけている。

子どもが生活や他児との関係性において安心し、信頼を育めるよう援助している

特別な配慮が必要な子どもについては、保護者や関係機関と情報を共有し連携して支える体制がある。例えば、その子どもが他児に興味を示したり他児がその子どもに興味を示した時には、互いの触れ合いを見守り、それを発展させて触れ合い遊びを存分に楽しめるように仲立ちをして他の子どもに対する安心感や信頼感を育めるようにするなど、個々に応じた計画を立て丁寧に支援をしている。

子どもの思いを受け止め受容的に関わり、発達に応じた丁寧な援助がされている

発達過程におけるトラブルの対応については、友達に関心が出る頃なので、トラブルがあることを前提としてお互いの思いを受け止め、受容的に関わり仲立ちをしている。例えば玩具の取り合いであれば同じ玩具を揃えるなど、トラブルを回避できるような環境を考慮してつくっている。噛みつき等が発生した時は、保育者同士が連携して対応し、また、未然に防げるよう振り返り話し合っている。成長段階の行動は言葉が出るようになると減るため、個々の子どもの状態や発達段階を把握できるようにしている。

2 評価項目2
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当

評価項目2の講評

登降園時はICTも活用して連絡事項を保護者、職員間で共有している

登園時には事前に連絡アプリで子どもの様子や登園予定などの情報を確認したうえで、玄関で1対1で受け入れ、視診と保護者への聞き取り、検温をしている。アプリにより発熱の有無や体調、睡眠や機嫌など、登園時に確認する情報が事前に得られており、また、日中の個々の姿はアプリを通じて保護者に詳しく伝えているなど、ICTが有効に活用されている。朝の受け入れと夕方の引き渡しはコロナ禍につき玄関で1名ずつ順番に行なっている。密を避ける理由であるが個別対応に時間がかかる場合があり、コロナ禍においては対策が難しいところとなっている。

子どもの気持ちを尊重し、見守り、声かけしてさりげない援助をすることを心がけている

トイレトレーニングは家庭主導で進め、家庭で出来たら園で対応する事にしている。食事や排せつの支援は一斉に行わず、個々に関われるように時差をつけて実施している。着替えや食事などは子どもの「やりたい」という気持ちを尊重している。1，2歳児の着脱の場面では保育者は待つ姿勢で保育をしており、子どもの「やってみよう」という気持ちを尊重した支援がされていた。また、1歳児の食事では、保育者の優しい声かけと適宜の介助で、子ども自らスプーンを持ち意欲的に食べ進めていた。次への意欲につながる援助がされている。

子ども個々の状況や生活リズムに合わせた援助がされている

午睡の支援では、入園当初は食事前に眠たくなる子もおり、その場合は午前寝をしてその後に食事をするなど一人ひとりの状態に合わせている。また、例えば、2歳児でも早く起きる子や保護者から午睡をさせないようにという要望があるときは、静かな遊びをして体を休めてもらいながら過ごしてもらっているなど、個々の生活リズムに合わせた対応をしている。

3 評価項目3
日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当

評価項目3の講評

成長に合わせて環境を整え、子どもが主体的に遊べるよう見守り、援助している

環境設定では玩具は子どもが興味を持って遊べる玩具がいつでも取り出せる位置にあり、遊びを展開して自由に遊び込める環境がつくられている。遊びのコーナーは1歳児であればソフトブロック、線路、絵本の読み聞かせ等、2歳児はおままごとコーナーやブロック等の見立て遊びができる玩具を用意するなど、子どもの関心に合わせて設定している。視察時は歌いながら遊んでいる子どもや、集中してブロックを組み立てている子どもなど、各自が自由に過ごしており、いつでも他の玩具へ移行が出来る環境のなかで遊びがどんどん展開していた。

歌や製作などで言葉や表現を育み、友達とのやり取りの仲立ちをして援助している

行事に関連した活動を普段の遊びの中に入れて雰囲気を味わったりしている。例えば節分会であればみんなで鬼に関連する歌を歌ったり、絵本を読んだりしている。視察時も子どもたちが自分でシール等を貼るなどして製作した鬼のお面が置かれており、お面をつけて遊ぶ子どもの姿も見られた。手遊び歌などは通年実施している。集団活動では、友達への関心が生じる頃であるので、子どもの気持ちを汲み取り手をつないで散歩に行ったりしている。手をつなぐことが苦手な子には卒園後のことも見越して促したり、他人と関わることに慣れるよう援助している。

天気の良い日は戸外に出かけ、自然や季節を感じられる活動が実施されている

近隣には自然も多く、公園にも恵まれた環境である。また、電車の操車場や警察署、消防署などの社会資源も多く、活動の中でそれらが活用できている。真夏以外は基本的に天気が良ければ戸外遊びをしている。遠くの公園まで出かけており、多摩川のせせらぎ公園まで行ってどんぐり等を拾ったり、霜柱ふみをすることなどもできている。また、探索しやすい環境もあり、六郷用水跡には鯉と亀がいる、多摩川には鴨がいるなど、自然や生き物を感じられる散歩先がある。途中の道すじにも森がある等、子どもたちが自然や季節を感じられる環境が整っている。

4 評価項目4
日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○ 非該当

評価項目4の講評

子どもたちが楽しめるよう考慮し、季節ごとの行事を実施している

行事は行事担当者が企画して実施している。また、保育者や子どもたちにも負担にならないよう、製作や壁面などにはこだわらず、雰囲気を楽しめるようなねらいで行事を実施している。園内行事では日本の伝統に触れるようにしており、子どもの日や七夕、お月見、お正月遊び、節分、ひな祭り等を実施している。実施時は行事にちなんだ製作を行ったり、歌を歌う、絵本を読むなど、行事に向けた時間の中で行事の雰囲気を味わい、楽しめるようにしている。

普段の遊びの中で行事を楽しみにして、当日を心待ちにできるよう行事に取り組んでいる

1，2歳児の行事では雰囲気を味わって楽しむことを大切にしている。例えば、クリスマスでは使用するマラカスなどを普段の保育の中で作ったり、正月遊びではだるまの貼り絵をみんなでつくったりしている。クリスマスの時は製作した物を子どもたちが自分で飾りつけるなどしており、参加する楽しみや「自分で」という気持ちを大切にしている。調査時は現在は節分に向けて鬼のお面づくり等も実施されており、当日は段ボールで鬼をつくってみんなで豆まきをする予定があるなど、興味と関心を高め、皆で行うことの楽しさが味わえる行事を実施している。

SNSに掲載する等で行事の様子を保護者に伝えている

保護者が参加する行事は実施しておらず、保護者参加の行事がない理由は明確にされている。園で実施した行事の様子は保育者が撮影した写真やSNSへの投稿により保護者に伝え、月に1度、写真販売などもされている。園で実施する行事に関しては、家庭でも話題にしたり、関連することを子どもと一緒に取り組んでもらうことなどを保護者にも呼びかけている。

5 評価項目5
保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○ 非該当

評価項目5の講評

子ども一人ひとりが安心し、落ち着いて好きな遊びができる環境づくりをしている

調査時は延長保育はスポットのみの利用であった。延長保育の時間帯は夕方の時間帯は子どもが落ち着いて過ごせるよう1対1で過ごせる配置にしている。また、ゴロゴロと横になれるようにマットを敷くなど体を休めることができるような環境を作り、ゆったり過ごしてもらっている。玩具は例えば、塗り絵や机上遊びなど、子どもが好きな遊びを提供しており、絵本も子どもが読みたい絵本を提供している。

子ども一人ひとりの様子を見極め、安心して過ごせる環境にしている

子ども一人ひとりの様子を見極め、ゆったり過ごせるスペースを確保することや、安心して過ごせるようスキンシップを図ることで、子どもが担任以外の保育者とも安心して過ごせることができる環境にしている。延長時の補食はおにぎりを提供しており、延長保育の連絡があった時点で準備をするため受付は当日の15:30頃までとなっている。おせんべいについては直前でも受け付けが可能である。食後は子どもが一人で手洗いもしており、衛生面の配慮がされている。

6 評価項目6
子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	○ 非該当

評価項目6の講評

座席の考慮や声かけ等で環境がつくられ、子どもたちは落ち着いて食事ができている

給食は子どもが落ち着いて食事をとれるよう時間を調整し、コロナ対策を行なったうえで少人数で摂っており、食事中は保育者が個々の子どもに応じて丁寧に関わっている。給食の準備は調理担当者が行ない、保育者と準備を分担して部屋の移動などもスムーズに行えるよう考慮されている。座席は子ども同士の組み合わせも考慮し、それぞれの子どもが集中して食事ができるようにしている。視察時は保育者が声かけや適宜の介助を行う中で、子どもたちは落ち着き、時間に追われたりすることなく、個々のペースで食べ進めることが出来ていた。

子ども個々の発達の状況などを考慮して、安心・安全な食事の提供に努めている

食事の際は子どもの関心を尊重しつつ、声かけをしてバランスよく食べられるように促している。給食ミーティングでは食事内容を検討したり、新メニューの検討などが行われており、毎日の食事時には調理担当者が子どもの様子を見て個々の発達に合わせた食材の大きさや長さを考慮し、行事のおやつなどについても子どもが食べやすいよう提供の工夫をしている。アレルギー対応では三大アレルギーを除去した給食を全員に提供しており、上記の範囲であればリスクなく、皆と同じ場所で食事をすることが出来ている。

食育活動では野菜を栽培し、自分たちで育て、収穫することを体験している

前年度はシイタケを栽培し、今年度はアスパラガスの栽培を室内で行なっている。子どもたちと一緒に鉢に植えて水遣りと収穫を週に1回行なっており、たくさん収穫できたとのことであった。このような取り組みから食の関心を高めており、視察時も関心を持つ子どもの姿が見られた。
保護者には毎月区から届く給食だよりと園からの食育だよりを配布しており、食育だよりには食育のことや毎月園で提供している郷土料理についての記事を掲載して園の取り組みを伝えている。また、給食レシピを定期的に発行し関心のある保護者に見てもらっている。

7 評価項目7
子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	○ 非該当

評価項目7の講評

子どもが理解しやすいよう意識して、安全確保や健康維持について伝えている

子ども本人の健康維持につながるよう、手洗い、うがいの声かけや危険防止についての呼びかけを行っている。散歩時は簡単な交通ルールや手を必ずつなぐ、白い線の内側を歩くなどを繰り返し伝えて子どもたちが意識できるようにしている。また、公園毎のおやくそくがあり、公園遊びを開始する前に確認をしている。手洗いは戸外から戻った時と食事前に実施している。保育者が傍についてしっかり洗えるよう声かけをしながら見守っている。食事前の手洗いでは保育者と一緒に石鹸を使用して、入念に手洗いを行う姿が見られた。

保護者からの相談事項を嘱託医につなげ、子ども個々の健康管理をしている

健診前には保護者に嘱託医に聞きたいことについてアンケートを取り、医師に確認している。子どもの健康については園長が把握し必要に応じて嘱託医につなげており、健診を通じて内科や歯科との連携をしている。食物アレルギーについては入園前に医師の指示書や生活管理指導票の書類を保護者に渡しその内容に基づいた対応をする体制がある。熱性痙攣の対応ではフローチャートを作成し、個別の対応を明記して連絡と対応ができるよう体制を整えている。

感染症やSIDSなど、保健・衛生に関する情報を保護者に伝え連携を図っている

保健に関する情報は毎月区から届く情報を園向けに編集した保健だよりを作成して保護者に配布している。また、感染症が発生した時には玄関に発生状況を掲示して感染症の種類とクラスの状況等を保護者に伝えている。乳幼児突然死症候群については区からのチラシを掲示して周知し、予防策について保護者に伝えている。園では午睡時は10分おきに呼吸と顔色、体位などを確認し、うつ伏せになっていたら仰向けにする等、SIDSの予防対応をしており、睡眠チェック表に記録している。

8 評価項目8
保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○ 非該当

評価項目8の講評

子育てや就労をする保護者のサポートを手厚くおこなっている

チャレンジキッズのこだわりとして、「らくらくセット」のサービスがある。毎日の荷物を最低限に止め、おむつは園で用意し持ち帰りもなく、エプロンやタオル類も園で準備する有料サービスであり、保護者のサポートを手厚く行なっている。延長保育は当日の申し出にも対応している。補食は直前の依頼でも対応し、15時30分までに連絡を入れればおにぎりの提供も可能である。土曜日保育は基本的に前週までに申し込みをしてもらうが急な依頼にも対応している。病院の見舞い等仕事以外の事情であっても預かっており、柔軟な支援が実施されている。

毎日の連絡を細やかに行ない、信頼関係づくりをして発達などの相談に応じている

子どもの様子を連絡アプリで日常的に細かく保護者に伝えている。連絡アプリ経由での保護者からの相談もあり、相談があった時には当日の降園時に担任や園長が対応することにしている。
園では保育参観や懇談会は実施していないが、新入園児の登園初日に「ふれあい会」を実施している。「ふれあい会」は園に慣れてもらうことや顔合わせの意味も持たせて実施しており、保育者、子ども、保護者の三者交流を実施し、職員の紹介をして保育アプリの使い方等、必要なことを保護者に伝えている。

発達や子どもとのかかわりについては適宜、個別に保護者に伝えている

日々の会話や連絡帳から子どもの発達や育児についての相談があるときは、その都度、個別に対応している。じっくり相談したいときは別途に時間を設けるなど、丁寧な対応がされている。卒園が近くなると移行の不安などの相談もある。その際は保護者に寄り添うとともに、子どもの心情にも寄り添い、見守り、落ち着いて過ごせるよう配慮して新しい園を楽しみに捉えてもらえるよう言葉がけなどをしている。

9 評価項目9
地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当

評価項目9の講評

恵まれた周辺環境を活かし、普段の保育の中で多様な体験ができる

園のすぐ目の前に消防署があるので、お散歩に出かけた際には挨拶をしてふれあう機会を持つことが出来ている。また、訓練や消防車を見せてもらったり、消防車に触らせてもらったり、シールをもらったりと大変よくしてもらっている。近くには警察署もあるため、パトカーを見せてもらったり、おまわりさんとお話をする機会も多い。近隣には電車の車両基地もあり、みんなで電車を見に行く等、子どもの好奇心を刺激する環境があり、日常の保育の中で活用されている。

勤労感謝の日など、子どもたちと地域の人たちが交流する機会がある

勤労感謝の日には警察署や消防署、クリニックに子どもたちがつくった製作物を持って行き手渡ししており、これはコロナ禍であっても実施している。警察署ではその日に白バイやパトカーに乗せてもらった等、なかなかできない体験をすることが出来ている。また、保育体験の募集ポスターを掲示して小中高校生などを広く募集しており、体験受け入れは地域の人と子どもたちが触れ合う機会にもなっている。

日常の中で地域の方との自然な交流がある

普段の生活の中で近隣の人達と挨拶を交わしており、よくしてくれる店舗の人や顔見知りになった近所の方もいる。日頃の保育の中で地域の方との自然な交流がされている。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	ハンガリー式の保育を取り入れ、1対1で個々の子どもに丁寧に関わる援助がされている	
内容①	ハンガリー式保育を取り入れ、1対1の丁寧な関わりを心がけ保育を行なっている。一斉保育ではないので、保育者一人ひとりのスキルがなければ目指す保育が実践できないことから、自然に子どもを引き寄せるスキルの習得などにも力を入れている。そのため週1回のミーティングで日常的に話し合うほか、実際に本場のハンガリーに研修へ行くことや（コロナ禍につき休止中）、ハンガリー式保育を取り入れている他の園や認可園等に行き視察、見学なども行なって、自園で話し合い組織と職員個々の保育の質の向上に努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル②	献立や食材を工夫し、卵・乳・小麦を使用せずに、安全で楽しい給食を提供している	
内容②	毎月、郷土料理を提供しているほか、使用するお米にもこだわって日々の給食を提供している。また、安全な食事提供の一環で、卵、乳、小麦粉を除去した給食を子ども全員に提供している。このことで卵、乳、小麦粉のアレルギーを持つ子どもの誤食リスクがなくなり、全員が同じ場で一緒に食事ができている。アレルギーを持っていない子どもは各家庭で卵・乳・小麦を積極的に摂取してもらうなど、保護者にも理解を得て実施している。三大アレルギー以外（ゴマや大豆など）の食物アレルギーについては除去対応を行なっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-1-2	事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している
タイトル③	職員が仕事と生活の両方を充実できるよう、環境の充実化に向けた各施策を推進している	
内容③	キャリアパスや人事評価制度の改訂、海外研修等で人材育成面を充実させ、また、有給休暇取得率の改善や残業時間ゼロの取り組み、育児休暇の奨励、時短勤務、シフトの考慮などして福利厚生面の充実に取り組んでいる。職員が仕事のやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方ができるよう諸施策を推進しており、仕事と生活の両方を充実するワークライフバランスの実現に取り組んでいる。	

《事業所名：チャレンジキッズ長原園》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保育理念に基づき、一対一の関わりを大切にして、子ども一人ひとりに丁寧に言葉をかけ関わっている
	内容	「やってみようの心を育む」を保育理念として、子どもが自分で行おうとする意欲を持てるよう、言葉がけなどの関わり方や環境の設定を大切にしている。また、一人ひとりの思いを尊重することを小規模園の特徴としても大切にして日々の保育を実践している。保育者は子どもが理解しやすい話し方で、穏やかに優しく丁寧に子どもたちに声をかけ接している。待つ姿勢で保育をしており、例えば、衣類の着脱などは本人の意思を確認し、尊重し、できたときには愛情をもって称賛することを応答的に行い、子どもの「やってみよう」という気持ちを大事にしている。
2	タイトル	園としての明確な保育観を持ち、保育者は園が目指す保育を理解し、協力してその実践に取り組んでいる
	内容	園で力を入れている「ハンガリー式保育」に基づき、チャレンジキッズの保育のかたちである「流れる保育（子どもの行動を止めない流れるような保育）」を現場で実践している。保育環境面ではコーナーを設け、玩具や絵本などを子どもが自由に楽しみ、興味に応じて遊びを十分展開できる環境が整えられている。給食の時間は遊びから食事への子どもの動きがスムーズにいくよう職員間で連携して準備し、自由に遊んだ玩具の片づけから食事への移動も円滑で、落ち着いた環境の中で食事を摂ることが出来ている。子どもの活動の流れを上手に組んでいる。
3	タイトル	職員間で日々話し合い、また、目標達成に向けて一人ひとりが取り組み、保育の質の向上が図られている
	内容	園内のことは職員皆で考えることにしており、検討事項については週1回開催するミーティングで決定している。例えば、戸外遊びの場所や保育環境、個々の援助などについて意見を出し合い、話し合って決定しており、子どもの姿や保育に関する認識を共有して日々保育にあたっている。能力やスキルの向上については個々に目標設定をして達成に向け取り組んでいる。法人では資格取得を奨励するほか、今年度は保育に特化したキャリアパスモデルを策定するなど、法人としても体制を強化して職員の成長を支援し、人材育成を推進している。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	事業継続計画（BCP)については早目に着手し策定することを期待する
	内容	安全の確保については地震や熱性痙攣、感染症発生時、怪我発生時などの対応行動をわかりやすく掲示し、また、毎月の避難訓練ではさまざまな想定をして、職員が迅速かつ適切な行動ができるよう体制が整えられている。コロナ禍にありこの1，2年は緊急性が高いコロナ対応を優先しており、事業継続計画（BCP)については園としても課題として認識し今後策定する予定としているため、機会を見て早目に着手されることを期待したい。
2	タイトル	地域との交流が日常的にできている中で地域と連携した取り組みについても検討していくことを期待したい
	内容	消防署や警察署の人たちや近隣の店舗、近所の方などとの日常的な触れ合いがある。また、勤労感謝の日や体験保育の募集など、地域の人たちとの接点になる機会が設けられている。地域と多くの接点を持つことが出来ている利点を生かし、地域子育て支援等で園の専門性を還元していくことも今後検討し、地域における園の存在感をさらに高めていくことも期待したい。コロナ禍にあり推進しづらい環境ではあるが、地域小規模という特性を活かして出来ることを検討していくことを期待したい。
3	タイトル	保護者との連絡については一層の向上に取り組むことを勧めたい
	内容	子育てや就労をする保護者のサポートを手厚くおこなっている。また、毎日の保護者との連絡を細やかに行ない、子ども個々の発達とそれに合わせた関わりなどについてその都度個別に伝え相談にも応じている。保護者との連絡についてはコロナ禍の状況下でもあり、情報量や連絡時期、伝え方などさらに改善できそうな点も見受けられるため、課題として改善・向上に取り組むことも勧めたい。